



クロスワードタイム

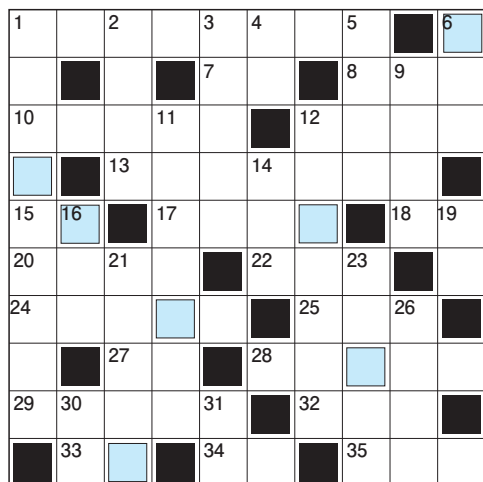
外からセミの鳴き声が聞こえてきます。たまにはクロスワードをお楽しみください。

二重枠の文字を並び替えると答えが出来ます。答え、郵便番号、住所、氏名、加盟組合、Compassの感想を記入し、はがきかメールでご応募ください。正解者の中から抽選で30名様にクオカードを贈呈します。

■ 〆切：10月23日（金） ■ 宛先：mail→ info@nikkenkyo.jp はがき→ 〒169-0075 新宿区高田馬場1-31-16 ワイム高田馬場ビル3F 日建協クロスワード係

ヒント：

半年に1度、中身を点検。
備えあれば、憂いなし。



ヨコのカギ

1. 車いすに乗って、コンピューターを使って会話をした、イギリスの天才理論物理学者。
7. 中は空っぽで、パンダが大好きな緑色の植物。
8. その地域や集団に共通する、独特のムードや気質。
10. 工場や車の排気ガスなど、自然や体に悪いものを一切出さないこと。
12. フィリピンの人々が、日常的に一番よく話す言葉。〇〇〇〇語。
13. 大きな貝殻に立つ女神の絵が有名なイタリアの画家。
15. 雨の日にバツと開く、持ち歩ける小さな屋根。
17. 風景や絵を美しくする、赤や青などの組み合わせ。
18. 昆布やかつお節からとる、味噌汁のおいしい素。
20. ビールなどのアルコールを味わうこと。
22. 陸地へ深く入り込んで、波がとても穏やかな海。

タテのカギ

1. 石油タンカーが通る、中東にある細くて重要な海の道。
2. アルバイトの貼り紙にある、今すぐ人を集める言葉。
3. 抽象的の対義語。
4. ペンキやソースを塗る、筆のような平らな道具。
5. くじ引きで教室の座る場所を新しく変えること。
6. 剣道やゲームで、攻撃から体を守るための装備。
9. 宇宙センターや大きな遊園地で有名な、アメリカの州。
11. 多くの州が一つにまとまってできた、国の呼び名。
12. 工事現場などで、中へ入ることを禁じる看板。

24. 作る工程の最後で、あえて加熱処理をしていない黒い調味料。
25. 布の間に綿をはさみ、縫い目模様をつけて仕上げた厚手の布。
27. 杏仁豆腐の上に乗っている、小さな赤い実。
28. まん丸いケーキを切り分けたような形で、それぞれの割合がひと目でわかる図のこと。
29. 空気を入れて膨らませ、水に浮くために使う袋状の道具。
32. 戦いや競争が、火が出るほど激しい様子を表す言葉。〇〇〇を極める。
33. 出したアイデアが不採用になり、捨てられること。
34. 果物の味がする、プニプニした食感のお菓子。
35. 漢字の練習や、物語の読み書きを学ぶ学校の授業。

14. 周りとは違う特別な輝きを放ち、ひときわ目立つこと。〇〇〇を放つ。
16. 表形式などで、相手をほめたため贈る言葉。
19. 庭や公園の地面を覆う、短く手入れされた緑の草。
21. 土に根っこを張り、太陽の光と水をたっぷり吸って大きくなる、草や木や花のこと。
23. スペインで活躍し、人物を縦に細長く描いた画家。
26. 荷台にたくさんの荷物をのせて走る、大きな自動車。
30. 組織やイベントの、全体の大きさや広がり。
31. パソコンやゲームに、いつ何をしたら残された記録。

Vol.839クロスワード 正解と当選

答えは「プラネタリウム」でした。



ご応募ありがとうございました。

当選者の方々にクオカードをお送りしました。

竹内崇裕、谷岡重司、湯川将司（アサヌマ）、
谷口裕樹、榊井康仁、三谷弘真（奥村）、竹林和（佐藤）、
大久保梓、佐久間友菜、野田龍之介、吉田将大（東洋）、
梶原瑠璃、河野勝彦、小木 愛、佐伯昌治、島添嘉史、
高橋 篤、中山慎也、吉村光弘（戸田）、
川口和彦（野村）、峯 純子（ピーエス）、
網岡直美、鈴木智筆、高橋潤子、寺田将人、安井敏夫（松村）
＜敬称略＞

編集後記

日建協第103回定期大会を開催し、2026年度の活動がスタートしました。新任執行委員として初めて参加した私にとっても、魅力ある建設産業の実現に向け、自らの役割を再認識する貴重な機会となりました。

さて、時間外労働の上限規制の適用から2年が経過し、組合員の皆さんの労働環境にも変化が生まれていると感じています。夏から秋へと季節が移ろうこの時期、定時で退社すると美しい夕空に出会えることがあります。かつては残業を終える頃には辺りは真っ暗で、季節の移ろいを感じる余裕もなかったという方も少なくないかもしれません（編集人の思い出ではありますが…）。仕事を早く切り上げた日は、ぜひ空を見上げてみてください。そのひとときが、時短の先にある豊かな生活につながっているはずです。

今号の表紙写真は、そんな思いを込めて選定しました。機関誌「Compass」では、読者の皆さんに楽しんでいただける誌面づくりに努めるとともに、日建協ビジョン2030「誰もがいつまでも働ける 誰からも誇りに思われる産業」の世界観を映し出すような表紙写真にも挑戦してまいります。

今年度も、皆さんと共に歩みながら、組合活動に役立つ情報をタイムリーにお届けしてまいります。今後とも変わらぬご愛読をよろしくお願いいたします。

船い

先週末、娘が突然「パパ、これ読んで」と一冊の絵本を差し出した。表紙はすっかり擦れ、角は丸くなっている。私が子どもの頃に読んでいたものを、いつの間にか実家から持ち帰っていたらしい。懐かしさと同時に、どこか気恥ずかしいような気持ちがこみ上げてきた。

ページをめくるたびに、不思議な感覚に囚われた。物語の内容は覚えていた。しかし、読み聞かせながら気づいたのは内容ではなく、余白だ。鉛筆で薄く引かれた線、破れかけたページを誰かがゼロハンテープで丁寧に補修した跡。おそらく母の仕事だろう。読まれ続けた証が、そのまま残っていた。当時の自分がこのページで何を感じたのか、今となっては思い出せない。それでも、その跡は確かに過去の自分と今の娘をひそかに繋いでいた。

子どもと過ごす時間は、驚くほど早く流れる。朝、幼稚園の準備をする数分。風呂上がり髪を乾かしながら交わす他愛ない会話。寝る前の絵本を読み聞かせる十

五分。それだけのことなのに、翌朝には子どもが昨日より少しだけ違う顔をしているように感じるの、親の思い込みだろうか。気づけば季節が変わり、着られなくなった服が引き出しに増えていく。

組合活動で「働き方」について語る機会は多い。残業を減らして、家族と過ごす時間を取り戻す。その文脈で時間を語る時、私はどこか数値や制度の話に終始してしまう。しかし、本当に取り戻したい時間の中身は、あの絵本の余白のようなものではないかと感じている。記録されないが、確かに積み重なっていく何か。数字では測れない、立ち止まって初めてその重さに気づくもの。

娘はいつか、この絵本を自分の子どもに読み聞かせるだろうか。そのとき、私が今夜引いた鉛筆の線が、また誰かの目に止まるかもしれない。世代をまたいで、ロープが岸につながれるように。

流れゆく時間を惜しむよりも、今夜の十五分を丁寧に——と思ったところまでは覚えていた。（先に寝た父）